

## はしがき

近年、聴覚障害児の聴覚補償を担うため、高精度の補聴器が開発されてきたが、背景騒音及び雑音等に話し手の音声がかなりかき消されてしまい、あまり役に立たないことが多い。また、聴覚障害児が在籍する通常の小学校及び中学校の担任教師及び健聴児童・生徒の補聴器に対する理解不足（例えば、補聴器を装用すれば問題なく音声がきき取れる）から、聴覚障害児と教師及び健聴児童・生徒間のコミュニケーション上のトラブルに発展することも少なくない。

これまで、研究代表者は聴覚障害児のコミュニケーション上のトラブルに関する研究の従事してきた。その中で、補聴器の活用に対する理解、聴覚障害児の「きこえにくさ」に対する理解が、それらに関する情報の不足などで正しく行われていないことが明らかとなった。また、研究代表者の所属する機関における教育相談でも、通常の小学校・中学校に在籍する聴覚障害児の保護者から聴覚障害に対する適切な理解が得られないことに関する相談が多く寄せられている。そこで、聴覚障害の正しい理解のための情報を提供するために聴覚障害の疑似体験教材の開発が急務の課題とされた。

そこで、本研究では、聴覚障害児が在籍する通常の小学校及び中学校の児童・生徒を対象とした聴覚障害への正しい理解を深める疑似体験のための教材を開発することを目的とした。その教材とは、補聴器に対する理解及び聴覚障害児のきこえのシミュレーションビデオテープであり、これらの教材を開発することによって、いかに効果的に聴覚障害への理解を深めるかについても実践的評価を試みた。さらには、資料として聴覚障害児・者本人が、自分自身の「きこえ」についてどう自己評価するのか、聾学校、通級指導教室、及び難聴学級の担任教師が通常の小学校にて聴覚障害理解の授業を行うにあたってどのような点で困難を感じているのかについても検討を加えた。

## 研究組織

平成 11 年度

研究代表者

佐藤 正 幸 （国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部）

研究分担者

菅原 廣 一 （国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部）

小田 侯 朗 （国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部）

鷲尾 純 一 （筑波大学 心身障害学系）

## 平成 12 年度

### 研究代表者

佐藤正幸（国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部）

### 研究分担者

穴戸和成（国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部）

小田侯朗（国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部）

鷲尾純一（筑波大学 心身障害学系）

## 平成 13 年度

### 研究代表者

佐藤正幸（独立行政法人国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部）

### 研究分担者

穴戸和成（独立行政法人国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部）

小田侯朗（独立行政法人国立特殊教育総合研究所 聴覚・言語障害教育研究部）

鷲尾純一（筑波大学 心身障害学系）

## 研究経費

平成 11 年度	1,200 千円
平成 12 年度	700 千円
平成 13 年度	700 千円

## 研究発表

### (1)学会誌等

佐藤正幸：聴覚障害児・者におけるきこえの自己評価に関する文献的考察.国立特殊教育総合研究所研究紀要.第 28 巻 57-65.（平成 13 年 3 月）

佐藤正幸：聴覚障害理解の授業に関する調査.独立行政法人国立特殊教育総合研究所研究紀要第 29 巻に掲載予定（平成 14 年 3 月）

### (2)口頭発表等

佐藤正幸・菅原廣一：聴覚障害理解のための教材開発 補聴器に対する理解を中心に 日本特殊教育学会第 38 回大会発表論文集 593（平成 12 年 9 月）

佐藤正幸：聴覚障害理解のための教材開発（2） 教材開発における質問紙調査 日本特殊教育学会第 39 回大会発表論文集（平成 13 年 9 月）